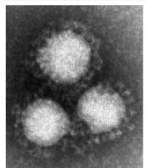




話題の感染症について

新型コロナウイルス

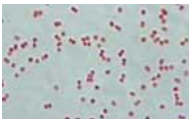


国立感染症研究所HP

現在は指定感染症に位置付けられている新型コロナウイルス感染症が、2023年5月8日以降は5類感染症に変更となります。これに伴って、これまでは全ての医療機関から患者発生数の報告が行われていました(全数把握)が、今後は予め指定された全国約5000箇所の医療機関からのみの報告(定点把握)に切り替わります。これまで行政機関が定めていた「療養期間」という概念はなくなり、例えば医学的にみて周囲への感染性がある時期であっても、外出や公共交通機関の利用等、制限はありません。3日前に新型コロナウイルス感染症と他院で診断されたばかりの方が、何も言わずに当院の外来を受診するということが起こり得ます。

5類感染症に移行したからといって、エアロゾル感染によって空間を共有するだけで容易に感染する感染力に何ら変わりはありませんし、オミクロン株の流行が始まった第6波以降でも国内で既に約5万5千人が亡くなった感染症であることに変わりはありません。これからも流行は発生するでしょうし、その際に油断していると院内でクラスターが頻発するという事態が発生しかねないということは認識しておく必要があります。

髄膜炎菌



国立感染症研究所HP

次に髄膜炎菌についてのお話です。先日、当院の入院患者さんから検出されました。同菌は「侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)」の原因菌として知られています。日本国内での患者発生数は年間20~40例と少ないですが、世界ではアフリカ中央部を中心に年間30万人の患者発生と3万人の死亡者があり、米国、英国等の先進国においても年間1000人以上の患者発生がみられています。

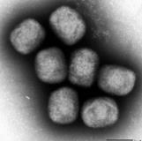
IMDを発症すると無治療のままでは敗血症、ショック状態、DIC、多臓器不全を呈して急速に死に至る可能性が高く、国内での頻度は低いですが知っておくべき疾患です。髄膜炎菌の感染経路は飛沫感染、接触感染であり、感染力はそれほど高くはなく、同居生活、飲み物の回し飲み、食器の共用等で感染例があり、いわゆる濃厚な接触により感染伝播するといわれています。髄膜炎菌の感染例がみられた場合、IMDを発症した場合の致命率の高さを考慮し、周囲の濃厚接触者やハイリスク者に該当する者には抗菌薬の予防投与が推奨されています(表)。



薬剤	年齢	用量	投与期間	注意事項
リファンピシン	1歳未満	5mg/kg 12時間毎	2日間	審判形性の恐れがあり、妊婦には推奨されない。
	1歳以上15歳以下	10mg/kg 12時間毎	2日間	
	16歳以上	1回600mg/kg 12時間毎	2日間	
シプロフロキサシン	15歳以上	500mg	1回	教育障害の恐れがあり、18歳未満の小児、妊婦、授乳中の授乳は一般に推奨されない。文獻上は小児、青年に対する教育障害の報告はないため、代替薬がない場合は使用可能。
アジスロマイシン	15歳未満	10mg/kg	1回	妊婦、小児ともに使用可能。
	15歳以上	500mg	1回	
セフトリアキソン	15歳未満	125mg	1回	筋肉注射による投与。
	15歳以上	250mg	1回	

表. 国内における侵襲性髄膜炎菌感染症の濃厚接触者並びにハイリスク者に対して発症予防目的に投与する推奨抗菌薬一覧
(国立感染症研究所HP: 侵襲性髄膜炎菌感染症対応ガイドライン
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/bac-meningitis-m/735-idsc/11109-imd-guideline-220331.html> より)

サル痘



国立感染症研究所HP

最後にサル痘について、第91号のICTニュース(2022年6月発行)にも掲載していますが、その後サル痘は2022年の夏期をピークとして国外での患者発生数減少傾向にありました。2022年の日本国内での患者発生数は7例に留まっていたが、2023年に入って患者発生数が増加し、第12週までで日本国内で59例、大阪府内でも2例の患者発生が報告されています。まだかなり限定的な患者発生ですが、髄膜炎菌と同様、今後海外からの人の流入の増加に伴い、患者発生数も増加していく可能性があります。(感染管理室 安井良則)

専門・認定看護師会 イベント開催！

NAKATSU Nurse
Specialist FES 2023
~未来へつなぐ B.T.S~

2023年3月10日、専門・認定看護師会主催のイベントを開催しました。イベントでは、来訪者に楽しみながら少しでも知識や技術を習得する場になるよう、各領域に分かれて、参加型の体験コーナーを開設しました。感染対策チームでは、個人防護服(タイベック)の着脱体験と画像クイズを企画し、看護師だけでなく、多くの職員に参加していただきました。タイベックの着脱体験では、汗を流しながら着慣れない防護服と格闘している姿が印象的でした。ご参加いただきました職員の皆様、ありがとうございました。(感染管理室 川口尚子)

- B** Best(最良・最善)
- T** Technic(技術・技法)
- S** Spirits(精神・真髄)

